

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価の調査項目です )

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	近隣の諸会社とのお付き合い。(ホームで必要なときは、近隣の会社を利用し協力しています。) 保育園との交流。自治会の廃品回収の協力。自治会のふれあいサロンとの交流。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が、理念に基づいた介護に取り組み、利用者の方々の日々の変化を共有し、適切な配慮が出来るように、毎月スタッフ会議を開催(職員全員参加)。また連絡ノート、介護記録、伝言等で取り組んでいる。		いつでも、職員全員が見る事ができる様に、玄関正面に理念を掲示しています。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方々へは、日頃からの挨拶や、必要に応じて自宅などに訪問し事業所の説明を行っている。又ご家族の方々には、2ヶ月に1度開催している家族会、面会時、行事の折々にお話しています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設が生活道路に面しているため、日頃からの挨拶は欠かさず行っています。特に近くの保育園児が施設の前を通る際は、手を振って声掛けを行っています。施設に入りやすいように日中は門扉を常に開けています。		きよねんの外部評価の際に、看板を大きくしたいと書いていましたが、今年に入り、施設の表と裏に看板を設置しました。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への参加、民生委員の方や、消防団の方等との対話。 毎月の廃品回収に参加している。防犯パトロールへの参加や、自転車に防犯灯を付けている。		清水の里便りを地域の回覧板にて回してもらっています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々の介護相談や入所希望者の家族等に介護相談にのっている。町内での介護の講演に行っています。		今年度は、短大生の職場体験を予定していますが、今後は、小、中学校の体験学習の受け入れをしていきたい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議の際に外部評価の事を説明し、外部評価の際だけではなく、日常から取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月18日に開催した運営推進会議で外部評価の事を説明しました。又9月に予定している運営推進会議で報告する予定です。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の保育園児との交流。 小、中学校の先生へのアプローチ。		7月30日に名古屋市市議会議員の方の見学の受け入れ。 (福岡市の紹介)
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について内部研修を行い、常日頃から注意を払い 虐待がないように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に明示している。家族との面談は重要視して充分におこなっています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関のロビー設置している。又日々の生活の中で、不満意見、苦情を聞き、日頃の運営に反映するようにしています。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1度開催している家族会、面会時の時、お手紙等で報告しています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には、家族会、各行事に参加してもらい、又家庭訪問等で家族とのコミュニケーションの多くもって意見を聞いていますが、不満苦情が無い。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話を聞く事も多々ありますが、月に1度のスタッフ会議には、全員参加し納得いくまで話し合い、職員の提案に耳に傾け改善出来る事は受け入れお互いに理解しています。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	全職員(非常勤も入れ)が必要な時には、積極的に出勤をしてくれ、1人1人の責任感が強い為、勤務調整はスムーズにおこなっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の待遇は常に向上するように努力はしていますが、自己理由での退職は抑える事が出来ません。但し利用者の方が職員が退職した事で不安にならないように説明したりしている。また介護内容も大きく変わらないように配慮しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員採用にあたっては本人の人柄次第です。当事業所には、60歳過ぎた職員も多くいます。又介護に関する資格を取得した職員には(非常勤であっても)資格手当を出して励まし認めています。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>内部研修を行っています。又毎月のスタッフ会議にて人権、人間の尊厳について話し合いをおこない、申し送りノートでも伝えていっている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>進めている。研修会には職員全員に参加を進めています。その際には、日々の人材配置にも考慮しています。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームの見学、電話、メールでの相談しています。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>話しやすい職場作り。 意見や不満を聞く。 毎月のスタッフ全員での食事会。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個人の能力が発揮して働けるように常に把握し向上心につなげている。 資格を取れるような勤務体制の構築。 資格給の給付。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に見えられた時や、電話がかかってきた時に困っている事や、不安な事を相手の立場に立って考え、それを支え、援助していく方法を説明しています。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の家に訪問したり、施設に訪問された時などによく話を聞き、支援していく方法を説明し安心していただくようにしています。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相互理解が出来るまでしっかり話し合いをおこない、又サービスについてや介護全般についても助言しています。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームになる以前は、老人アパートであったこともあり、馴染みの生活をそのまま続けています。		入居契約前に当施設に馴染めるかどうか体験入居も出来る様にしています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や、後片付け、洗濯物干しやたたみ、自室の掃除や 手すりふき、庭の掃除や草取り等を利用者と一緒におこなっている。そんな中昔の知恵等を教わる事がある。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事の時等に食事介助やトイレ誘導等をおこなって頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族や、親類の方々がよく訪ねて来られるので、日常の様子や 説明等を写真、介護記録を見せたりしながら職員全員が説明出来るようにしていますし、出来るだけ御家族の方が顔を見せて下さるようお願いしています。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食や馴染みの関係との支援。 お寺参り。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話題やゲームを提供し、役割や作業を通して、お互いに関り支え合うように努めています。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に移られても、その施設に面会に行ったり、電話等で常に連絡を取っています。又その家族の方とも連絡を取っています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動、表情の中から御本人の暮らし方や意向希望等を汲みとり個々に合わせた対応をおこなっています。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしや、生い立ちを把握し、重ねて日常生活の中で、御家族や御本人から生活歴、暮らし方を伺っています。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者1人、1人の能力を把握し、その日の体調や気分に合わせて職員は対応しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御本人と日常的に話し合い、御家族とは面会時や電話等で話し、医師とは往診時や受診した際に意見を聞き、作成しています。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月事の見直しをおこなっています。又利用者の方の体調に変化が生じた場合は、本人、御家族、医師と相談し新たな計画を作成しています。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた事を介護記録に記入しています。実践チェック表に記入し必要に応じて口頭やスタッフノートを踏通して情報交換をしている。又毎月のスタッフ会議で介護の見直しを必ずおこなっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行事や外出の際には、御家族や近隣のボランティアの方々に協力を頂いています。 学生による音楽療法、フラダンス、セラピー犬、近隣の保育園児との交流等を支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	学生による音楽療法、フラダンス、セラピー犬等によるボランティアの支援。 地域サロンとの交流。 消防署との連携による避難訓練。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外部研修で一緒に勉強した方々と連絡取り合い、連携を取っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議のご案内を出し、参加して頂き協働しています。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人や御家族と話し合い協力医療機関を決定しています。又必要に応じて御家族が希望するかかりつけ医を受診しています。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療所の中の精神科医と認知症についての相談、治療を受けている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が日常の健康管理をおこなっています。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の方が入院した際には、毎日のようにお見舞いに伺う。入院した病院の担当医と相談し、短期で退院して頂き、当施設で対応出来ました。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会や面会時の度に重度化、終末期のあり方について話し合いを重ねている。又かかりつけ医にも往診の際に相談しスタッフ会議で方針を共有しています。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化、終末期をよりよく暮らしていただく為に、事業所内で出来る最大限のケアをおこないます。今後の変化の予測をし、ここまでは出来るということを経験者や職員で検討しています。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	御本人、御家族、かかりつけ医と十分に話し合いを重ね、御本人がダメージを受ける事無く安心して暮らせる場を提供出来る様に努力しています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権の尊重と利用者のプライバシーを大切にするようにスタッフ会議日々の職務時でも職員の意志の統一をはかり、記録上でも心がけています。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の方の会話には常に耳を傾けています。又話がしやすいような雰囲気作りをおこない利用者の方の意見を常に尊重しています。認知症な為利用者の方々の思いを計る為にセンター方式を活用しています。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の日々の暮らしに支障のない範囲で、出来る限り利用者の方のペースに合わせて過ごして頂ける様に心掛けています。但し利用者の方の体力低下等によりどうしようもない場合は、職員が状況に応じて声掛けをおこなっています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日常の洋服は出来るだけ御自分で選んでもらい、理容は2カ月に1度、出張理容に来てもらっています。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方に何が食べたいかを尋ねたり、野菜を切ったり、洗ったりして頂いています。準備や後片付けも職員と一緒に出来る範囲でおこなってもらっています。季節を感じられるメニューを取り入れています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日々、支援しています。		お花見、お誕生会等特別の日に希望される食べ物や、飲み物を提供したり、習慣として飲まれておられる健康飲料水を提供しています。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各利用者の方のパターンに合わせて声掛けや誘導をおこなっています。健康管理の為に排泄のチェックもおこなっています。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、入浴担当は決めてはいますが、状況に応じていつでも入っていただけるようにしています。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後には、昼寝の時間を設けています。但し寝たくないと言う利用者の方は、無理に寝てもらわずに自由に過ごして頂いています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の方々の個々の能力に合わせてゲーム、散歩、外出、行事をおこなっています。又、出来る事はなるべく手をかさずに見守っています。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方々の能力に合わせて、買い物等を支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の方々に行きたい所を伺い、又御家族にも相談し、なるべく希望に沿うようにしています。食堂の横のウッドデッキを活用し季節を感じていただいています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見、博物館見学、レストラン、ショッピング等の行事を企画し、家族の方々にも声掛けをおこない、参加して頂き外出をしています。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の希望に沿えるように支援をおこなっています。電話でのやりとりが多いです。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員全員が気持ちよく対応をおこない御家族や親類の方々と接しています。又どなたの訪問にも職員は、一緒に喜んでいきます。		近くに住まわれている小さな子供連れのお母さんが、利用者と触れ合う等訪問されたりしています。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を開き勉強をおこなっています。利用者の方の怪我等のよりどうしようもない場合は、拘束廃止委員会を開催し、又御家族にも説明し同意を得ておこなう場合もありますが、なるべくしないように努力しています。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には施錠はおこなっていません。しかし病気などにより感染の恐れがある場合は、御家族の方へきちんと説明をし、同意の上おこなうようにしています。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して職員が利用者の方々の安全に気を配っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員全員が利用者1人、1人の状態を把握しています。特に各居室においては、利用者の方々に合わせた家具の配置をしています。利用者によっては、危険な物品に関してご家族の同意を得て預かるようにしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット記録、介護記録の活用。スタッフ会議にてヒヤリハットの項目を設けて話し合いをおこない振り返り、再発防止に取り組んでいます。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の方の急変時の連絡体制を作成し、施設長、管理者、看護師はいつでもかけつけて対応出来るようにしている。急変、事故発生時については、スタッフ会議で話し合っています。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	情報誌(清水の里だより)にて、利用者の顔写真、年齢を入れ、どのような方々がこの施設で暮している方をお知らせし、災害時の協力を依頼しています。(利用者の方々の個人情報載せる事については御本人、御家族には同意を得ています。)		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や面会時に毎回きちんと状況を説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、状態の観察をおこない、変化や異変がある場合は、看護師にすぐに伝え、対応を協議しています。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方々が服薬している薬の作用や副作用を十分に理解しています。又与薬時にも日付と名前を確認して与薬しています。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食物の提供や、毎朝のヨーグルトの提供をおこなっている。又体操、歩行運動、お腹のマッサージ等を日々おこなっています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがいや歯磨き、義歯の方は義歯をはずして頂き洗浄をおこなっています。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養やカロリーを考え、利用者の方々の好みを取り入れた献立を考え、利用者の方々に合わせて形態を変えて提供しています。水分については、食事中や10時、15時のおやつで補っています。入浴後にも必ず水分を取ってもらっています。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、職員の手洗いうがいの励行。毎日手すり、ドアノブ、トイレ洗面所の漂白剤によるふき掃除をおこなっています。玄関に手洗い所を作り、ウェルパスを置き外来者の方にも協力頂いています。又各居室には、クレベリングル(ウイルス除去剤)を設置しています。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒等衛生管理には充分気を付けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉は日中は常に開放しています。又季節の花を施設や玄関周りに植え、玄関には花を生け親しみやすい雰囲気作りをおこなっています。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	娯楽室、食堂等日当たりの良い空間が多く、常に季節感を味あう事が出来ています。又食堂横にウッドデッキを作りより一層季節感を味あう事が出来ています。又娯楽室には、利用者の方で作成したカレンダーを貼り月がわかるようにしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室にて利用者の方々が、思い思いに話をされたり、テレビを見たり、塗り絵や箱作りをされたり自由に過ごされています。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人、御家族と充分に話し合い、御本人が使用されていた家具を置いたり危険のないように配置したりしています。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中はほとんど窓を開けて換気を充分におこなったり、消臭剤等を設置したりしています。空調機はその日、その時に調整しています。天気の良い日には、布団干しも心掛けています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則的には利用者の方の行動の自由は尊重するようにしていますが、利用者の方々の体調等を見て職員が見守りや声掛けをおこなっています。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の方々が、見たり、聞いたりして感じた事に職員全員が共感し時には、職員が手助けをしています。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	その日の天気や利用者の方々の体調、気分に合わせてウッドデッキに出たり、お庭に出て花を見たりして頂いています。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
<b>. サービスの成果に関する項目</b>			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
		↓	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない